

平成 28 年度

事業計画書及び収支予算書

自 平成 28 年 4 月 1 日

至 平成 29 年 3 月 31 日

公益財団法人 会田病院

平成 28 年度 公益財団法人会田病院 事業計画

〔基本目標〕

1. 公益財団法人会田病院の機能を十分に発揮できる体制を整備し、地域医療を推進する。
2. 医療・介護サービスの提供システムを再構築し、利用者の満足度を高める。
3. 地域住民の健康づくり推進し、地域包括ケアシステムの構築に参画する。
4. 医療人としての専門性を発揮できる支援体制をつくり、職員の教育水準を高める。
5. 組織の活性化とワーク・ライフバランスを推進し、職員満足度を高める。

〔重点目標〕

1. 法人関連施設の機能を最大限に活用し、有機的な運用を行う。

- 1) 法人関連施設の医療・介護サービスの提供体制の見直しを行い、運営効率を高める。
 - ・救急患者の受入れ体制、及び高齢者施設との連携体制を整備し、入院稼働率を高める。
 - ・入院療養から訪問診療、及び訪問看護・訪問リハビリテーションへの移行を推進する。
- 2) 地域の行政、医療・福祉施設、団体等との連携を行い、在宅復帰を推進する。
 - ・県南地域退院支援システムを活用し、入院前から地域のケアマネージャーとの連携を行う。
 - ・入院時から早期に多職種が関わり、チームで在宅復帰にむけて取り組む。
- 3) 地域の医療連携を行い、在宅医療の推進と看取りの充実に向けた取り組みを行う。
 - ・地域の医療連携システムを見直し、病院や在宅における看取りのあり方を検討する。
 - ・在宅医療における在宅支援システムの I T 化にむけた基盤づくりを行う。
- 4) 診療報酬改定に伴い施設基準等の見直しを行い、適正な運用を行う。
 - ・病院における施設基準の取得について確認を行い、届出・運用を適正に行う。
 - ・診療行為に伴う診療記録、看護記録等の記載を徹底し、適正な医療請求を行う。
 - ・入院患者や施設入所者の嚥下機能評価ができる体制づくりを行う。
- 5) 診療や医療に係るデータを業務の見直しに活用する。
 - ・クリニカルインディケ이터を決定し、医療機関の選択に活用できる情報を公開する。
 - ・医療データを集積し、経営の指標として活用する。
- 6) 公益財団法人星総合病院との人事交流による情報交換を行い、人材・組織づくりを行う。
 - ・病院機能評価受審にむけて各部門との情報交換を行い、提供システムを見直す。
 - ・B L S ヘルスケアプロバイダー育成事業を星総合病院と連携して行う。

2. 医療・介護サービスの提供体制を再構築し、良質なサービスを提供する。

- 1) 患者・利用者の安全を最優先した医療・介護サービスを提供する。
 - ・新たな医療安全管理体制と医療事故防止の仕組みの再構築を行う。
 - ・5 S 活動を継続し、安全に提供できる環境づくりをする。
 - ・医療関連感染サーベランスを行い、院内感染防止に取り組む。
 - ・患者及び利用者に対して十分な説明と同意を行い、臨床倫理に配慮した業務を行う。
- 2) 各施設における医療・介護サービスの提供システムの見直しを行い、再構築する。
 - ・病院における外来受診から退院までの各職種の診療提供システムについて可視化する。
 - ・在宅における各職種の診療提供システムを可視化する。
 - ・施設・設備や備品、書類等の管理システムについて確認し、可視化する。
- 3) 各職種の専門性を生かし、患者・利用者視点のサービスをチームで提供する。
 - ・外来待ち時間を利用し、専門職種によるミニ健康講座を開催する。
 - ・在宅における各専門職の役割について考え、サービス提供の基盤をつくる。

- 4) オーダリングの機能を積極的に活用し、医療情報を共有する。
 - ・キビタン健康ネットワークシステムを利用し、他病院との患者情報を共有する。
 - ・オーダリングの利用状況を確認し、更新にむけた準備を行う。
- 5) 開かれた病院のイメージづくりに向けて様々な広報活動を行い、情報を発信する。
 - ・ボランティアによるものづくりやコンサート等を開催し、地域住民の交流の場をつくる。
 - ・ホームページ・face book 及び病院モニターを活用し、地域に情報を発信する。

3. 法人の医療・介護情報を地域に発信し、地域包括ケアシステムの基盤づくりをする。

- 1) 地域住民対象の健康講座や病院見学等を開催し、情報交換や広報活動を通して情報を発信する。
 - ・糖尿病や呼吸疾患等の健康講座を開催し、患者のセルフケア能力を高める事業を行う。
 - ・病院キッズツアーや病院見学を開催し、医療職や病院について地域住民の関心を高める。
 - ・地域包括支援センターとの情報交換を行い、健康生活に関する支援情報を発信する。
- 2) 法人にある資源を地域住民が積極的に活用できる企画を立案し、健康づくりを支援する。
 - ・法人施設を利用して地域住民がフィットネスやカルチャー活動できる基盤を作る。
 - ・療養患者・家族支援する患者会や家族会による地域で支えるしくみをつくる。
 - ・行政と連携し、地域住民や関係職種を対象に認知症サポーター養成講座を開催する。
 - ・行政と連携し、認知症のある人の家族を支援する認知症カフェの開催準備をする。
- 3) 健康診査と健康診断後の健康支援を継続的に専門職が提供するシステムを作る。
 - ・健康診査の受けやすいシステムを見直し、サービスの向上を行い、満足度が高まる。
 - ・健康診査後に各専門職によるサポート支援システムをつくり、健康への関心を高める。
- 4) 地域住民に医療・介護情報を発信の方法を検討し、活用しやすい情報の提供を行う。
 - ・診療予定や病院バスの運行、及び利用方法について地域住民に分かりやすく情報を提供する。
 - ・病院診療、及び在宅医療等のしくみについて地域住民が理解できるように情報を提供する。

4. 地域にある資源を積極的に活用し、まちづくり事業の健康支援に参画・協働する。

- 1) 行政との連携・協力をし、温水プール等を利用した健康づくりに参画する。
 - ・行政主催の健康づくり事業の企画・運営について情報交換を行う。
 - ・温水プールの利用による健康づくり支援について企画を立案する。
- 2) 行政主催の介護予防、及び健康づくり事業に協働し、住民の健康支援体制をつくる。
 - ・行政事業の介護予防事業に各専門職が参画できる支援体制をつくる。
 - ・行政事業の介護予防以外の健康づくり事業に各専門職が参画するための基盤をつくる。
- 3) 地域の子どもの対象とした栄養管理や身体ケア等の健康支援を行う基盤づくりをする。
 - ・地域の子どもの対象にした健康支援について行政に相談を行い、プログラムを検討する。
 - ・地域にある様々な資源について情報収集を行い、その活用について検討する。
 - ・子どもの成長・発達を支援する専門職を育成するための教育支援を行う。

5. 職員の専門性を高める教育システムを整備し、地域に貢献する医療人を育成する。

- 1) 職員の資格取得を支援する体制や専門的な学習をしやすい環境の整備を行う。
 - ・研修計画に基づき院内外にて研修を行い、職員の資格取得を支援するしくみを整備する。
 - ・文献検索、及び書籍・雑誌等の整備を行い、図書室を利用しやすい環境にする。
- 2) 地域の医療機関や高齢者施設における技術水準の向上、及び知識の共通化に取り組む。
 - ・地域の医療機関・高齢者施設とのケアに対する共通認識が持てる仕組みをつくる。
 - ・当法人で開催する研修会に地域の医療・介護職員が参加できるように案内を行う。

- 3) 大学・専門学校等の実習や地域の職場体験等の受入れを行い、指導能力を高める。
 - ・医療に関連する大学・専門学校生の実習受入れ体制や評価方法を整備する。
 - ・実習指導者への教育システムを検討し、指導者の学習支援を行う。
- 4) 外部に対する教育研修事業への参加を通し、職員の能力を開発する。
 - ・地域にある施設や団体に対する教育・研修支援のプログラムを整備する。
 - ・外部に対する教育研修事業（院外活動）を行うための職員への支援体制を整備する。

6. ライフステージに対応したワーク・ライフバランスを高め、働きがいのある職場を作る。

- 1) 社会人として、医療人としてコンプライアンスを遵守し、社会に貢献する職場風土をつくる。
 - ・コンプライアンスの遵守、及び医療・生命倫理等に関する研修を開催する。
 - ・地域のボランティア活動に参加し、地域貢献に対する意識を高める。
- 2) 職員のメンタルヘルスに対応する相談システムを構築し、働きやすい職場づくりを行う。
 - ・職員全員がストレスチェックを行い、悩みや困りごとを相談しやすいシステムをつくる。
 - ・職員の満足度調査を行い、仕事と生活の調和に配慮した職場環境を整備する。
- 3) ライフステージに対応した柔軟な雇用形態、及び組織力を高める人材育成と配置を行う。
 - ・ライフステージを考慮した正職員の多様な雇用形態について検討する。
 - ・組織力を向上するための人員配置と経験を生かした多様な人材育成に取り組む。

7. 公益財団法人として地域に貢献する事業を展開する。

- 1) 地域行事に参加し、地域のまちづくり事業を推進する。
 - ・地域が開催する盆踊りやその他のまちづくり事業に参加する。
 - ・商工会議所や区長会、地域包括支援センター等との情報交換を行い、地域のニーズを知る。
- 2) 70周年記念事業を行い、地域住民に還元する。
 - ・地域医療への貢献を纏め、70周年記念式典を開催する。
- 3) 寄附をしやすいしくみを作り、寄附を地域に定着させる。
 - ・寄附の募集方法を見直し、利用者に周知する。
 - ・寄附による事業展開の基盤をつくる。